

# 令和2年度 第2回 京都府域渋滞対策協議会

新型コロナウイルス感染拡大による交通状況等の変化

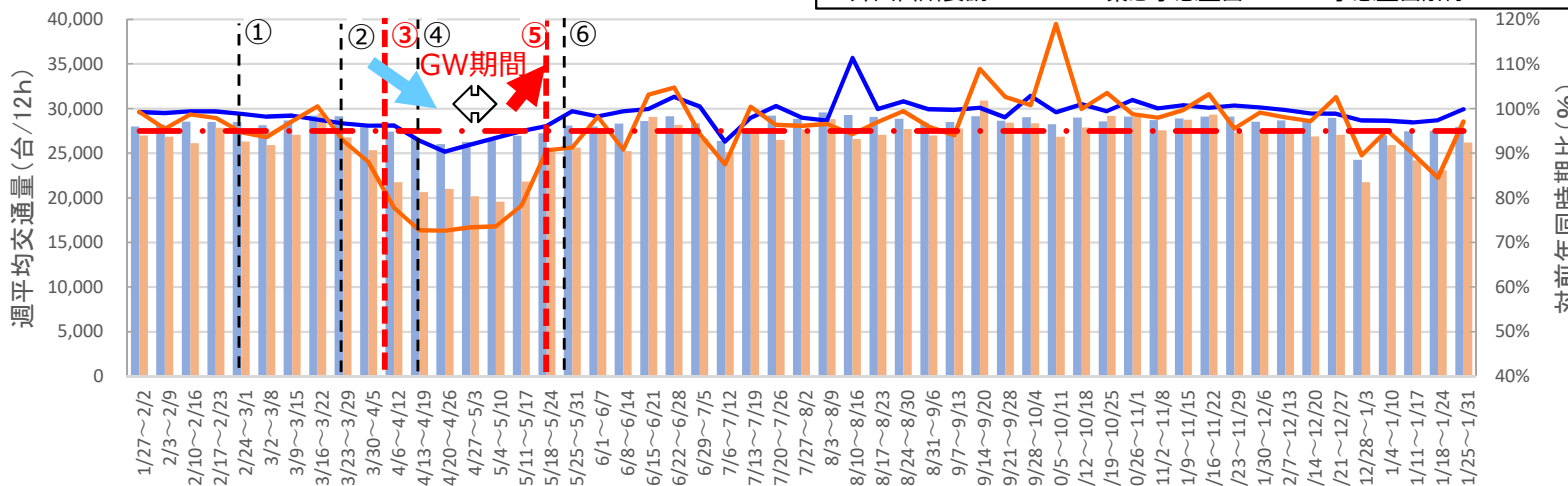
---

# 1. 京都府の国道における交通量の変化

○府内の直轄国道の断面交通量は、GW期前後に最も低下し6月頃には交通量が対前年比95%程度まで回復。  
 ○6月以降、休日は前年と比較し交通量の増減が大きく、95%を下回る時期もあるが、9月中旬以降は概ね95%以上で推移。  
 ○府北部は京都市周辺と比較し、交通量の減少時期が早く(3月)、減少割合も大きい。

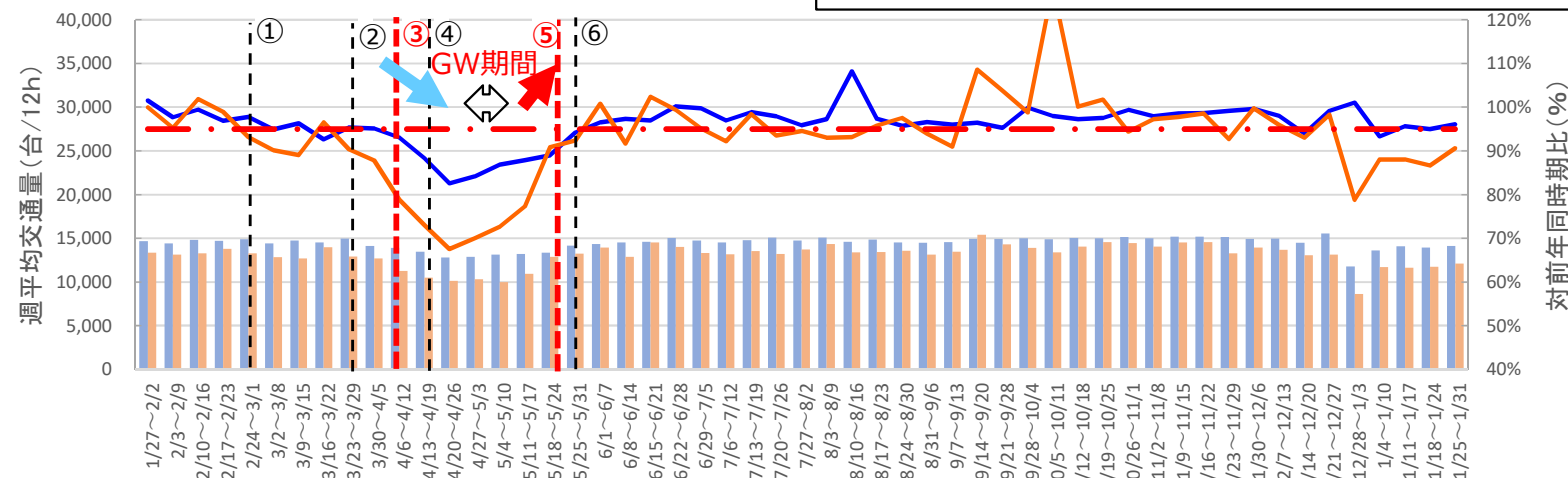
## ■京都市周辺の観測点の2020年週平均12h交通量及び対前年同期比の推移(2020.2~2021.1)

※京都市周辺の5箇所の観測点（音羽、観月橋、上五反田、大山崎、大枝）の交通量（平日・休日の週平均）を前年同週と比較



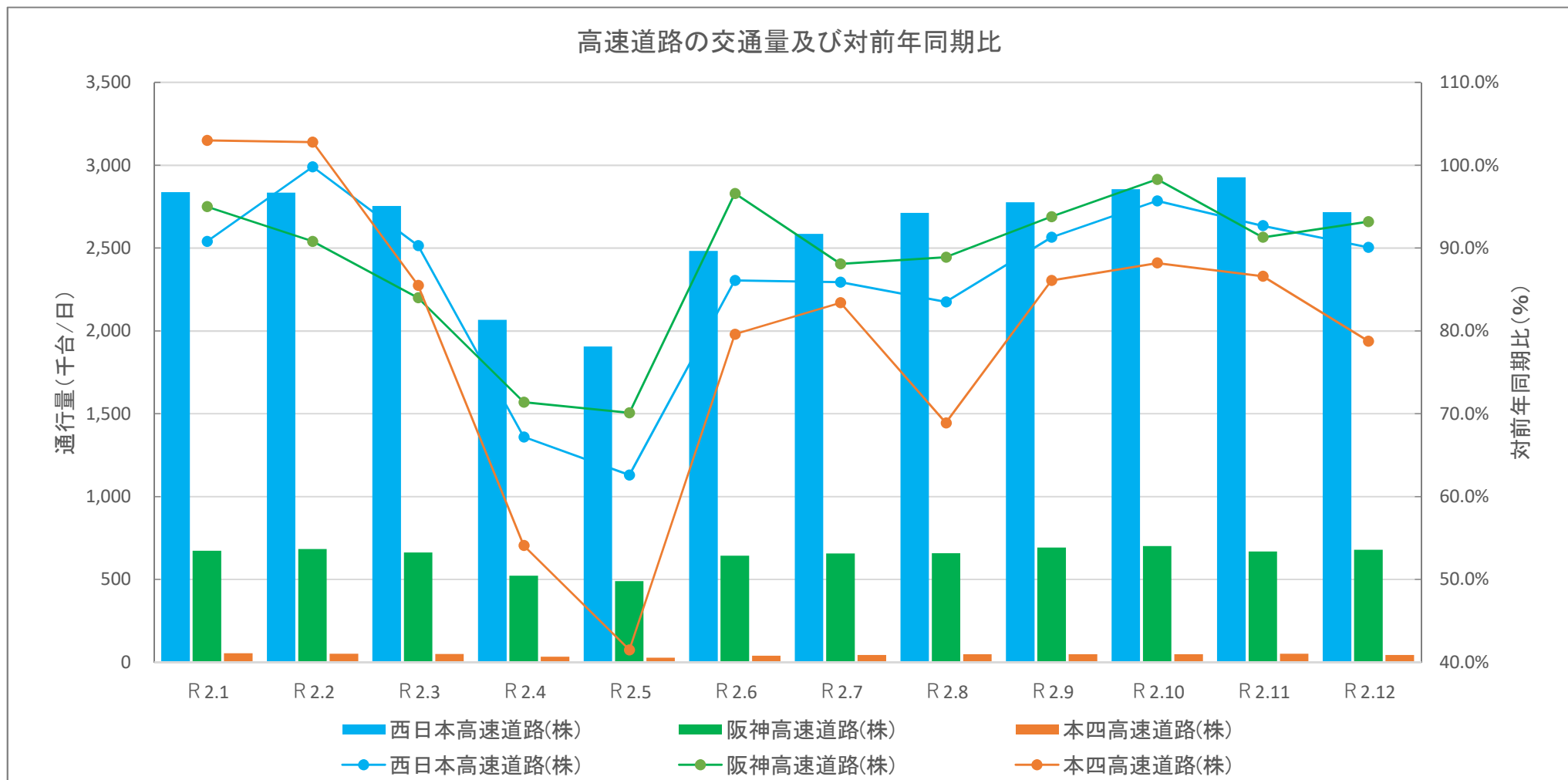
## ■京都府北部の観測点の2020年週平均12h交通量及び対前年同期比の推移(2020.2~2021.1)

※京都市北部の3箇所の観測点（福知山、吉坂、味方）の交通量（平日・休日の週平均）を前年同週と比較



## 2. 高速道路における交通量の変化

- 各高速道路における交通量は、対前年比では5月に最も低下しその後は回復傾向。
- 京都府内も通る西日本高速道路の交通量は、9月以降90～95%程度で推移。

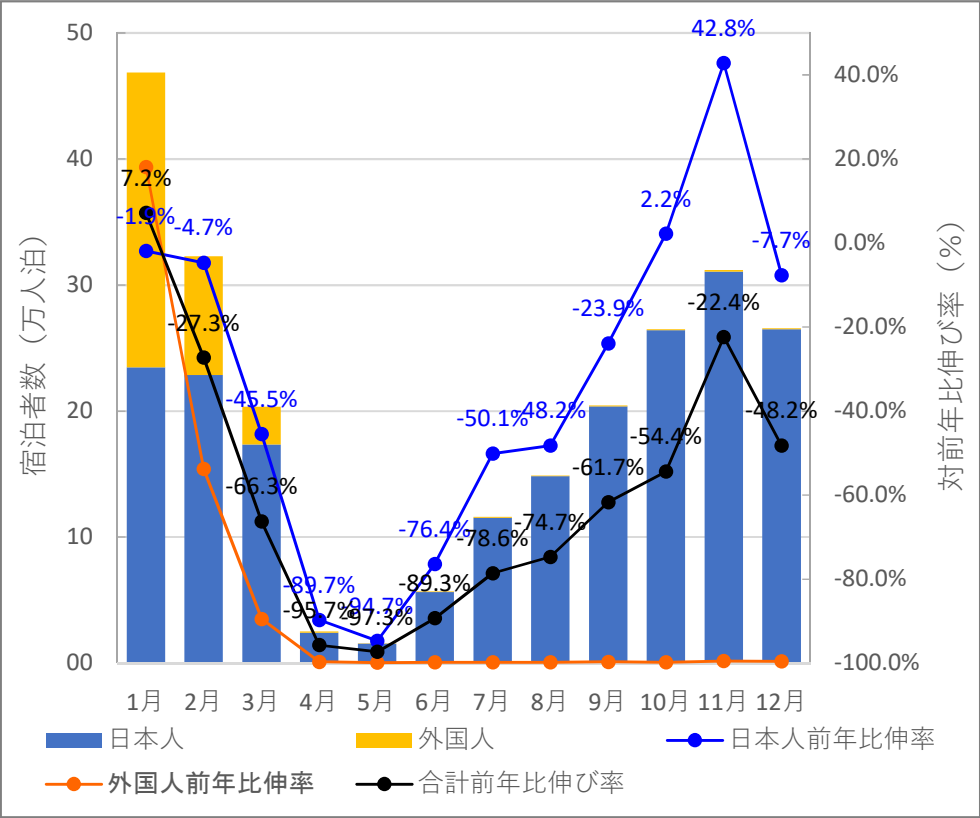


- ※ 交通量は各高速道路会社調べ。
- ※ 西日本高速道路(株)の交通量は原則として支払料金所における通行台数をカウントしたものである。
- ※ 阪神高速道路(株)の交通量は阪神高速1回の利用を「1台」として集計。
- ※ 本四高速道路(株)は、神戸淡路鳴門自動車道、瀬戸中央自動車道、西瀬戸自動車道の県境断面交通量の合計値である。

# 3. 京都府内の観光客数等の状況

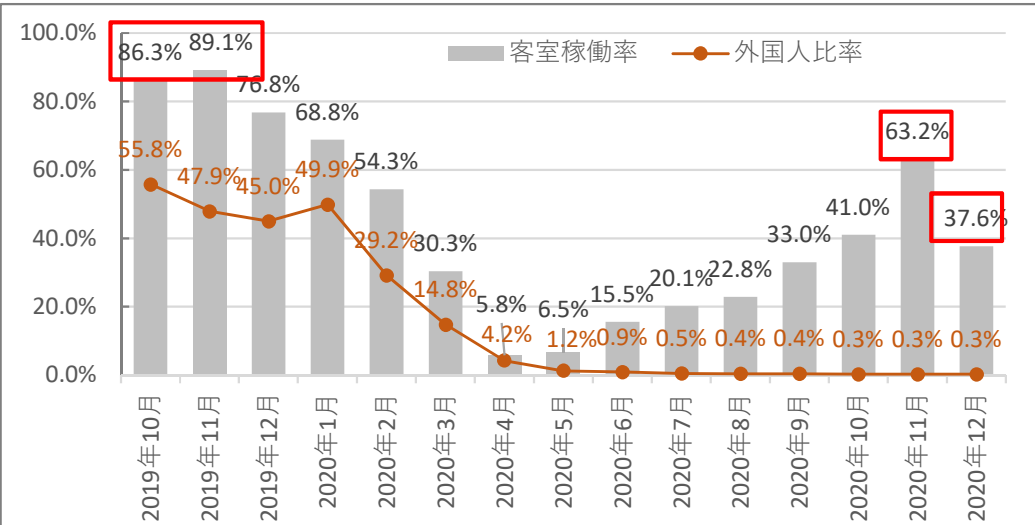
○京都府内の観光客数は、外国人観光客の回復はみられない状況ではあるが、日本人観光客は6月より回復傾向にあり10月、11月は前年を上回る状況(全体としては約-20%)であったが、12月は再度落ち込んでいる。  
○客室稼働率についても11月時点で約63%と回復傾向にあったが、観光客数と同様に12月は再度落ち込んでいる。

■観光客数(宿泊者)推移 (R2. 1～12月対前年同月比)

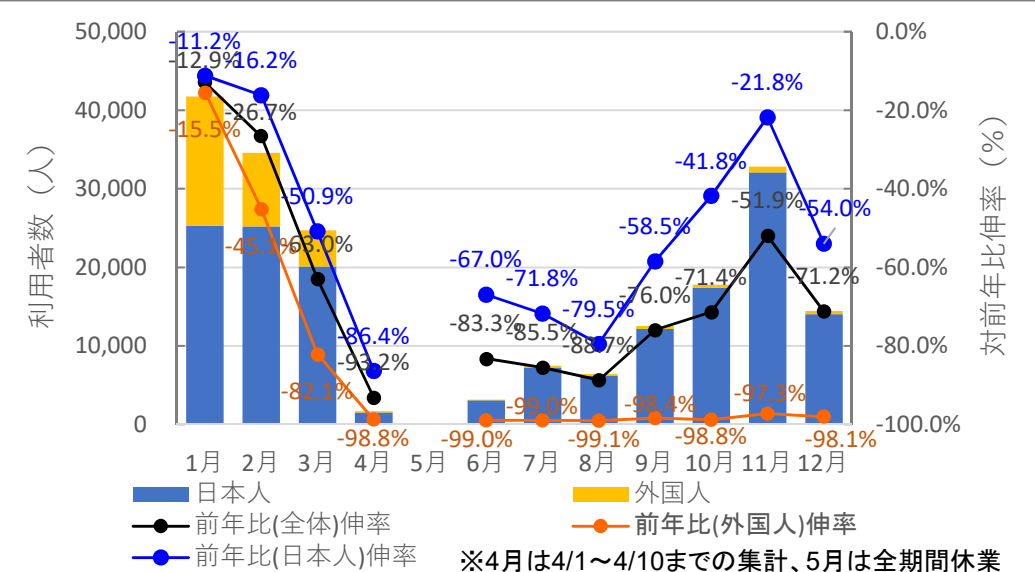


(出典)京都市観光協会 京都市観光協会月報本資料(2020年1～12月)を使用して作成 <https://www.kyokanko.or.jp/report/>

■客室稼働率・外国人比率推移 (直近1年間の月別推移)



■京都総合観光案内所利用者数の推移(R2. 1～12月対前年同月比)



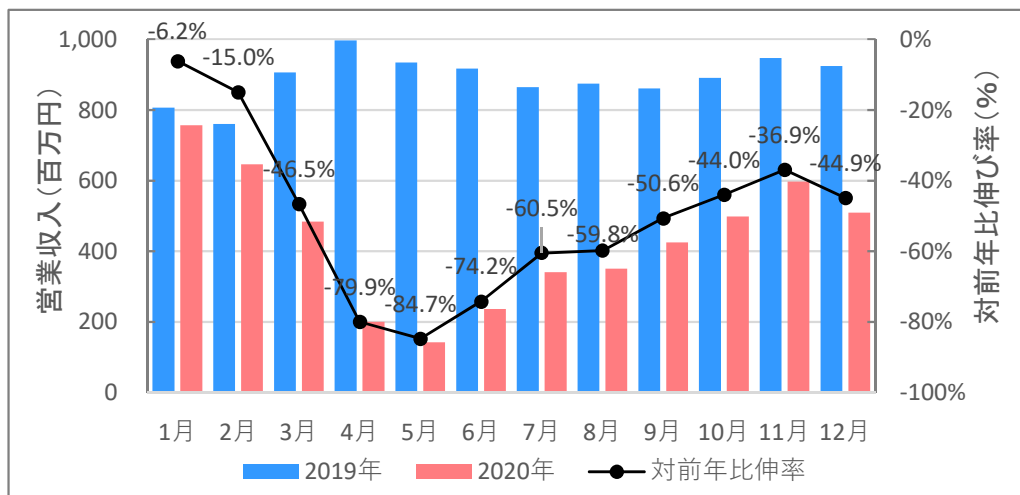
※4月は4/1～4/10までの集計、5月は全期間休業

# 4. 京都府内における観光交通の状況

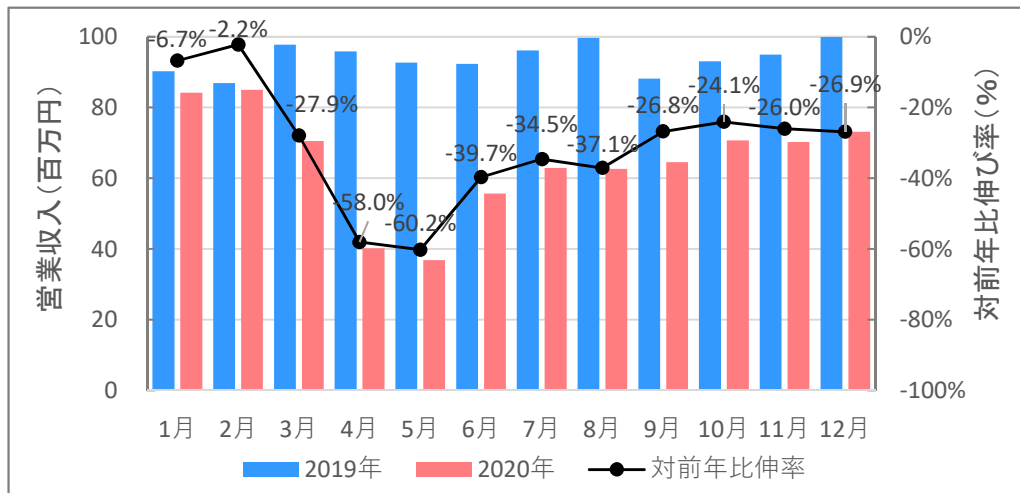
- タクシー事業者の営業収入は、「京都市域」「京都北部」共に5月に底を打ち、その後11月頃まで回復傾向にあったが、12月は再度落ち込みがみられる。
- バス事業者についても、回復傾向にはあるが、11月時点で運送収入は対前年伸び率-49%、稼働率も前年に大きく及ばない。

## ■タクシー事業者の営業収入及び対前年比伸率

### 京都市域地区

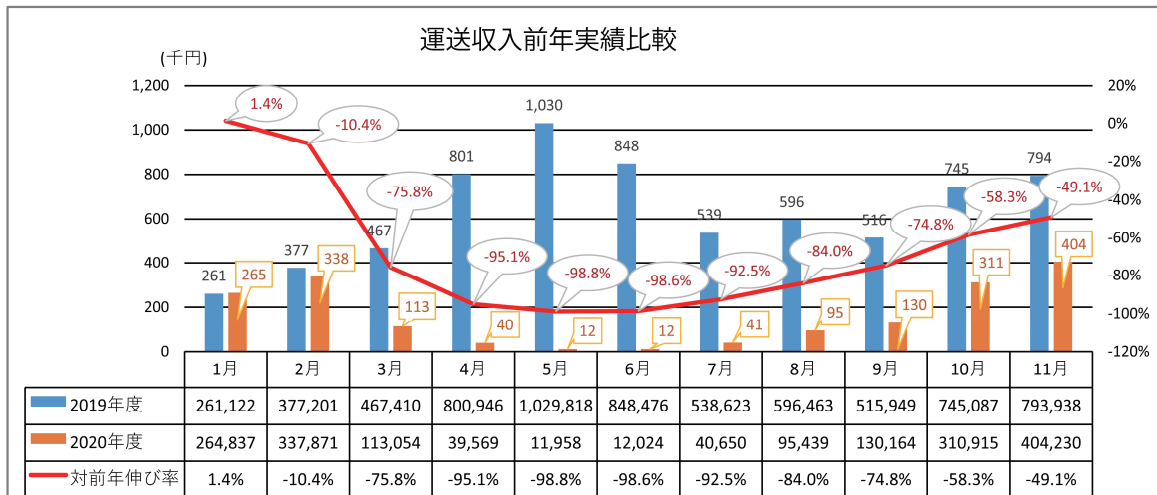


### 京都北部地区

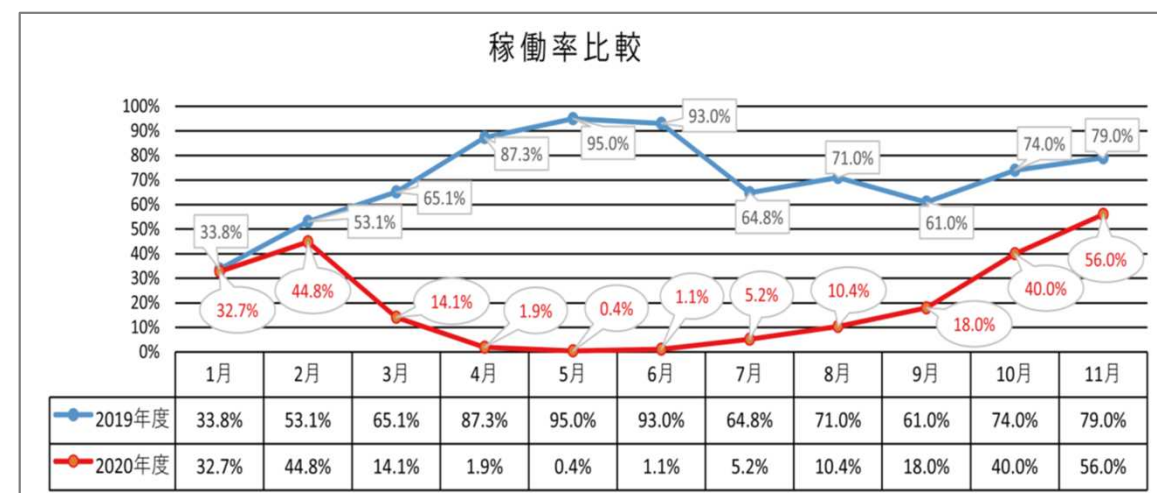


## ■バス事業者主要6社の運送収入・稼働率前年実績比較

### 運送収入



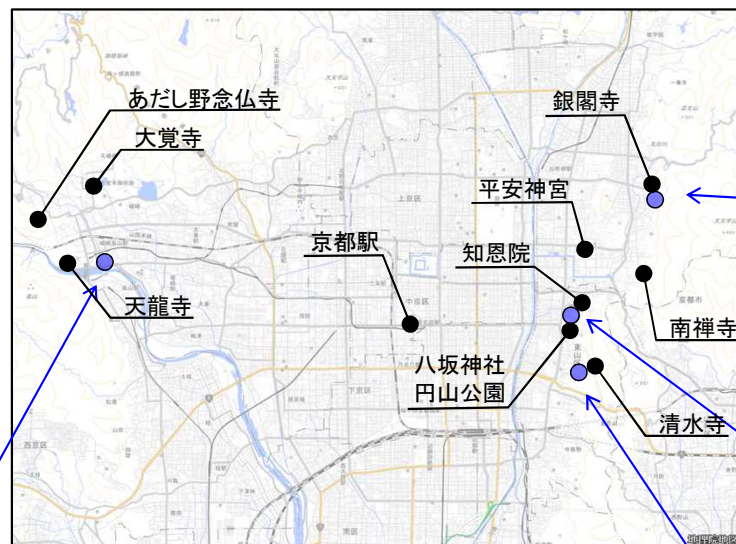
### 稼働率



# 5. 京都市内における観光交通の状況

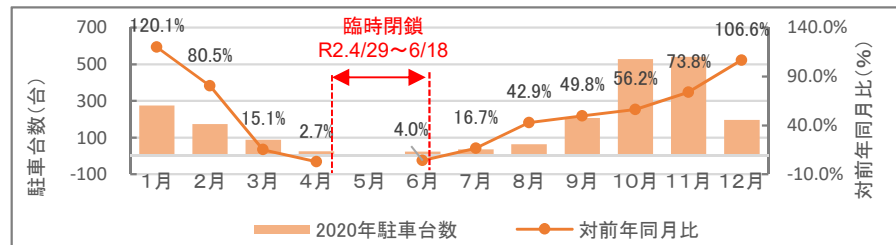
○観光地周辺の駐車場利用状況の変化としては、バスは前年と比較し、臨時閉鎖後も利用状況が概ね低い水準にある。  
○また、普通車は一概に前年と比較できる訳ではないが、バス利用の減少に伴い、利用が増加している状況がみられる。  
(嵐山・銀閣寺・清水坂の各観光駐車場は基本バス・タクシー優先であり、マイカーはバス・タクシーに支障がない範囲での利用)

駐車場位置図

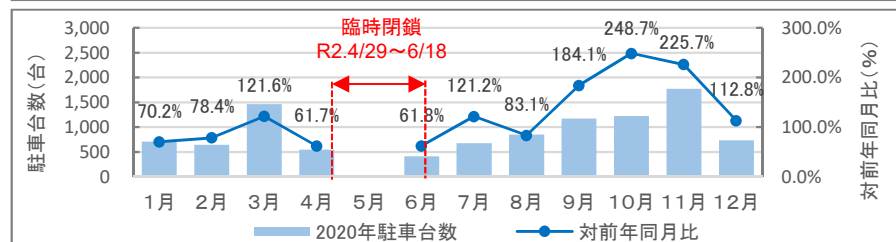


銀閣寺観光駐車場

バス駐車台数

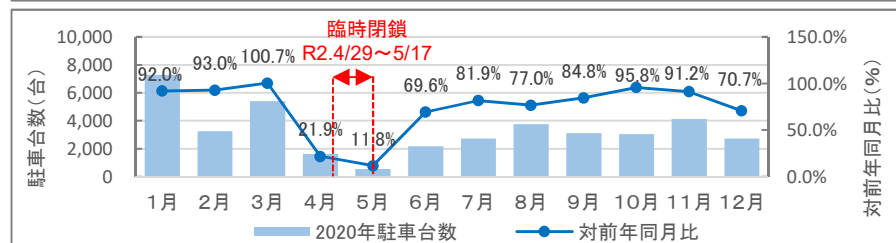


普通車駐車台数



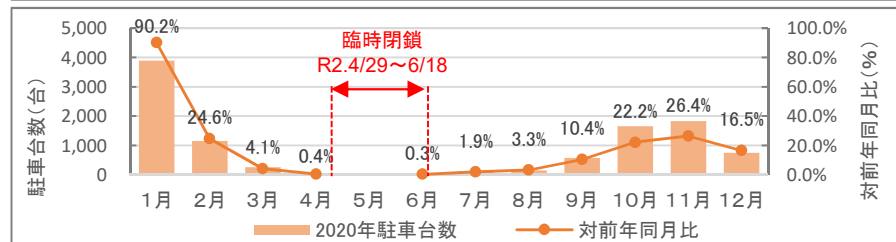
円山駐車場

普通車駐車台数

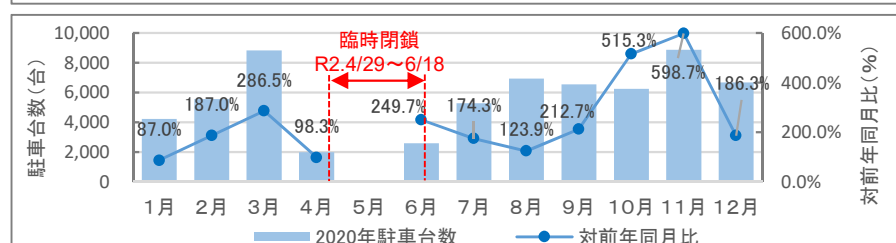


清水坂観光駐車場

バス駐車台数

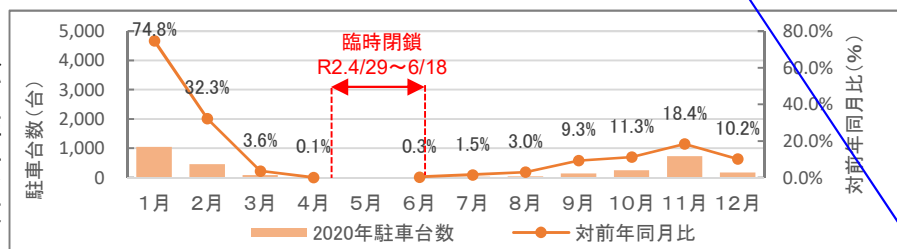


普通車駐車台数

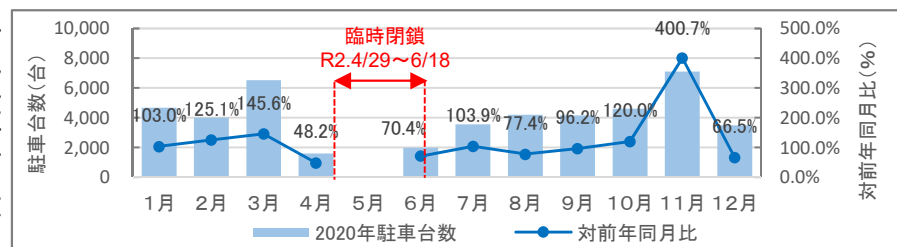


嵐山観光駐車場

バス駐車台数



普通車駐車台数



※観光駐車場はバス・タクシー優先

※駐車台数出典:京都市建設局

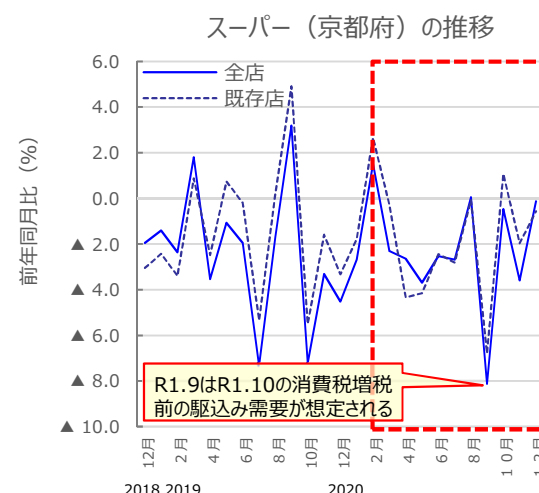
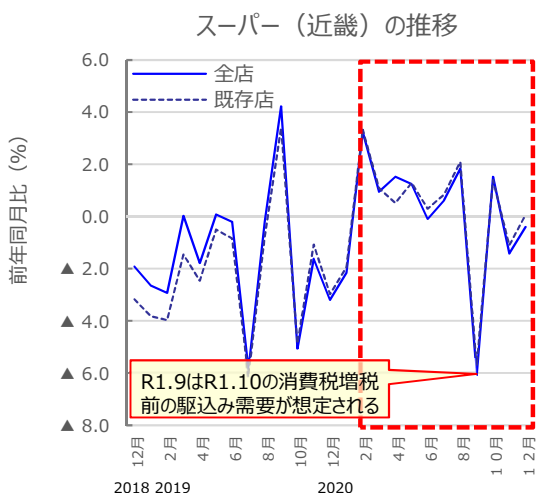
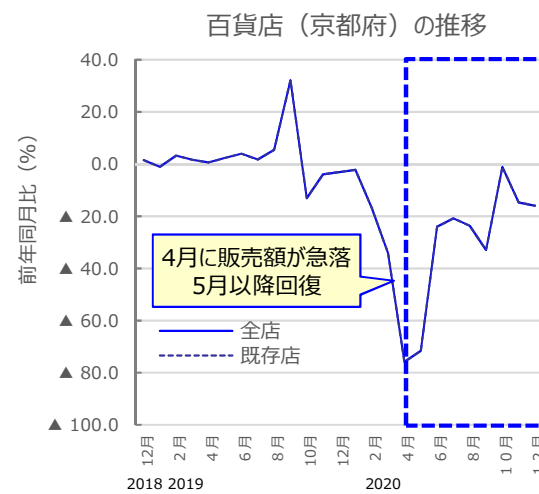
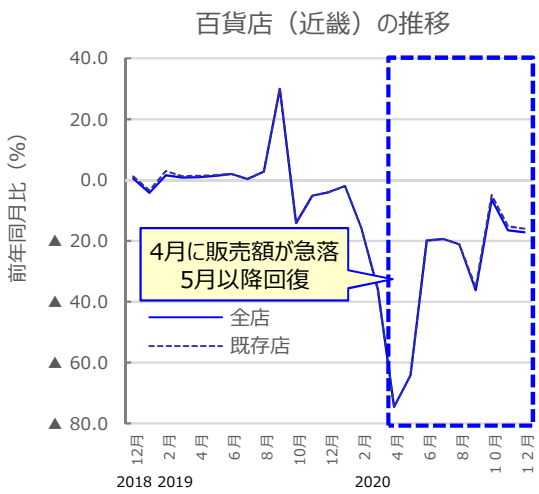
# 6. 京都府内の製造業の変化

○百貨店の販売額は、2月より減少傾向で4月に底を打ち、5月以降は回復傾向にあり、10月時点で前年比-1%程度まで回復したが、11月・12月は少し落ち込みがみられる。

○スーパーの販売額は、2月より減少傾向で4月に底を打ち、5月以降は回復傾向にあり、12月時点で対前年並みまで回復。

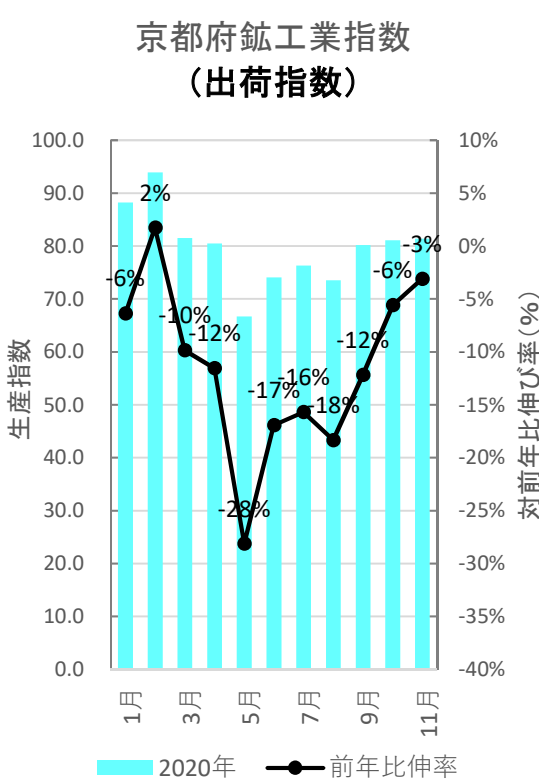
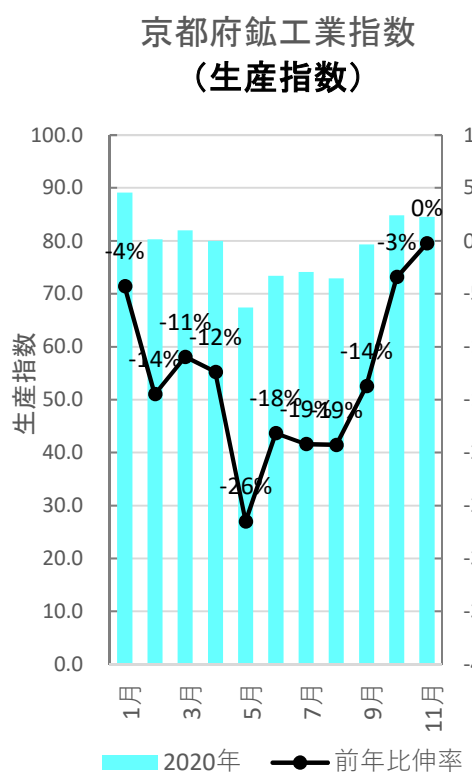
○京都府内の鉱業・製造業の生産・出荷指数は対前年同月比で5月に最も低下(約-30%)した後、11月時点で対前年並みまで回復。

## ■百貨店・スーパー販売額(前年同月比)



## ■京都府鉱工業指数推移(1～11月対前年同月比)

- 鉱工業指数とは、鉱業・製造業の動向を示す数量指数
- 生産指数：鉱工業生産活動の全体の水準の動きを示す
- 出荷指数：鉱工業製品の工場からの出荷の状況を示す



全店：新規店舗を含む全店舗の売上 既存店：出店から一定の期間以上経過した店舗だけの売上  
(出典)経済産業省 近畿経済産業局HP News Release 百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)  
(令和2年12月速報)より

(出典) 京都府鉱工業指数 京都府政策企画部統計課(季節調整済指数、平成27年(=100)基準)前年度比伸率は2019年2020年指数より算出